

# 山本瀧之助の生涯と 社会教育実践

没後80年

多仁照廣

Tani Teruhiro

A5判・上製・264頁

2011年11月刊行

定価 本体3500円+税

ISBN 978-4-8350-7080-3

山本瀧之助は、明治6(1873)年11月15日に、現在の広島県福山市沼隈町で生まれた。昭和6(1931)年10月26日に59才で亡くなってから、今年で80年が経過した。その生涯は、近代国家の形成期に立身出世を夢見て都会に憧れながら、田舎を出ることが出来ず、自らを草莽の寒生、逆境青年とし、田舎にいる有為の青年の立場とその全国組織化をリードし、代表し続けた。それ故に、「青年の父」「青年団の母」と称される。『若者仲間の歴史』(日本青年館・1984)『山本瀧之助日記』(日本青年館・1985)『青年の世紀』(同成社・2003)と、日本における若者と青年の社会史を時系列的に研究・刊行してきた著者が、各巻に分割掲載した解説論文を一冊にまとめ直して全面改訂、青年の学習と自立を目指して青年とともに歩んだ山本瀧之助の生涯を紹介する。



不二出版



# 近代化と青年教育をとらえ直す一冊

財団法人日本青年館

理事長 小里 貞利

当館から『山本瀧之助日記』全四巻を刊行してすでに26年経ち、今年には山本瀧之助先生の没後80年にあたります。

3月11日に起きた東日本大震災はこれまでの私たちの生活を一変させ、未だに対応できない原子炉に被災地の時間は止まったままです。これまでの日本の近代化、とりわけ効率主義とは一体何であったのか大いに検討していく必要があります。

明治22年、山本瀧之助先生は東京に職を得て、広島県沼隈の自宅から歩いて松永駅までいき、はじめて山陽鉄道の汽車に10時間ゆられて上京します。今なら飛行機か新幹線で僅か4時間足らずです。しかし、当時の時間を無駄と言えるでしょうか。

今回、不二出版株式会社より山本先生の没後80年を記念して多仁昭廣先生の『山本瀧之助日記』全四巻の解題を一冊にまとめ『山本瀧之助の生涯と社会教育実践』として刊行されますことに関係者として大いに喜んでいきます。山本先生は、近代化を支えた多くの名もない若者たちに光を当てた『田舎青年』を刊行し、青年団の全国組織化や青年教育、青年団運動の必要性を国に訴えてきました。

これを機会にわが国の近代効率主義と青年教育をとらえ直し、大震災以降、ますます社会や地域の中で若者たちの主体性と役割を考えていくことが求められています。本書は、物質的豊かさだけではない、地域における豊かな人間関係を切り結ぶ一冊だと考えています。

## 序論

### 第1章 草莽之寒生

1. 山本瀧之助日記の概要
2. 山本瀧之助の生い立ち
3. 明治20年代の「青年」と「草莽之寒生」
4. 日清戦争と「少年会」
5. 田舎青年
6. 逆境青年

### 第2章 青年団体の恩人

1. 「日本」青年会の成立
2. 「逆境青年」と「地方青年」
3. 日露戦争と内務・文部両省の着目
4. 「地方改良」と瀧之助
5. 青年団と中央機関
6. 沼隈郡青年大会と「地方青年団体」

### 第3章 一日一善

1. 全国青年大会
2. 実業補習学校長と「一日一善」
3. 青年団と修養団
4. 青年団体への施策と第一次世界大戦
5. 中央指導機関と全国青年団連合大会

### 第4章 青年の天地

1. 「団体訓練」と少年団・処女会
2. 日本青年館および大日本連合青年団
3. 関東大震災と社会教化
4. 巡回青年講習所
5. 「青年の天地」

資料／索引  
あとがき

## 目次

### 一 山本瀧之助日記の概要

彼は書きたかった。書かねば世間に申し訳ないと思った。

昭和三年七月十日、山本瀧之助は再び日記を書き始めた。彼が日記を再開伝記中に、『一日一善日記』があることを知ったためであった。七月三日、を見て、

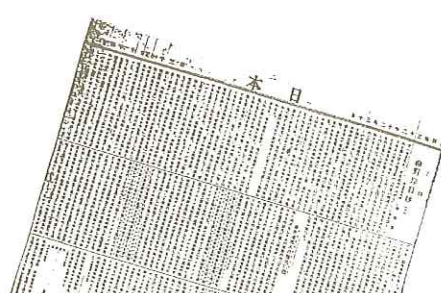
われは初めから一日一善を口にし、よく筆にして、一日一善の開山でもあるかの如く世間から見られている。しかも連続した日記を持たないといふは、まことに世間に対しても申し訳のないことである。これ迄幾回も日記をはじめたけれど、いつとはなしに中絶する。(中略) いよいよ今度と言ふ今度は小松原さまの霊に対しても強硬的に続けねば済まぬ。

と決心した。

七月四日 朝、日本青年館の食堂にて二人の客に飯を盛る。心ばかりの見舞品を持って菓嶋に留岡校長を見舞

ふ。

という記事から再開された日記帳は、昭和四年十一月十日よりの上京の帰途、齒痛から骨膜炎になり入院したため、



山本瀧之助の日記「一日一善」の抜粋。明治32年12月30日付の「日本」掲載の「青年の天地」の欄に掲載された。この日記は、山本瀧之助が没後80年を記念して刊行された『山本瀧之助の生涯と社会教育実践』の一冊に収録されている。

『日本』青年会設立の条(明治32年12月30日付「日本」掲載)

## 内容見本

一 山本瀧之助日記の概要



中央報徳会 編纂（明治39年〜昭和21年刊）

### 斯民 しみん 全38巻・別冊1

別冊Ⅱ解説（金澤史男・解題（酒田正敏）・目次総覧）  
●A4判・上製・総14、200頁  
揃定価768、000円

00年10月〜02年12月配本完結（復刻版）

本誌は明治三九（一九〇六）年四月創刊、昭和二年一月まで、全四〇編四七一号刊行された。創刊当初、内務省は地方自治の基本方針として、二宮尊徳の「報徳」の理念を採用し、「道徳と経済の調和」を基本標語とした。当時の内務、農商務、文部、各省の地方行政、地方自治と密接な関係を持つ官僚を主導とし、地方自治に対して常に多大の影響を与えており、狭義の報徳主義研究の資料にとどまらず、地方自治・農政史を含む日本近代史研究の宝庫でもある。

●推薦Ⅱ 海野福寿・宮崎隆次・宮地正人・和田守

### 近代社会教育史料集成

日本青年館発行（昭和6年刊）  
岡田洋司 解題

### 山本瀧之助全集

●A5判・上製・函入・1、220頁・

定価20、000円／85年12月刊（復刻版） 近代日本の青年・壮年層の社会教育の上で、重要な役割を果たした山本瀧之助（一八七三〜一九三二）の著作・論文のエッセンスの集大成。近代日本の農村青年の自己形成史を知る上で貴重な書である。

### 近代社会教育史料集成

日本青年館発行【取扱図書】

### 大日本青年團史

●A5判・上製・函入・総776頁  
定価14、000円

89年6月刊（復刻版）

戦前、日本の社会教育の中心は青年団であり、政策的にも重視されてきた。その意味で日本の社会教育を語るべき、青年団の歴史はさけて通れない。本書は、昭和一七年に日本の青年団の歴史を初めて体系づけた唯一のものである。内容は、江戸時代初期の若連中から説きおこし、大正期の大日本連合青年団の統一、大日本青年団、そして昭和一六年の大日本青少年団へ再編成する前までを記録している。

歴史学・教育学・政治学・民俗学研究に極めて有用な書である。

### 近代社会教育史料集成

日本青年館発行（昭和45年刊）

### 大日本青少年団史

●A5判・上製・函入・総1、072頁  
定価18、000円  
96年4月刊（復刻版）

戦前の青少年団の活動記録は、昭和一六年まで『大日本青年団史』に詳述し、昭和一七年から二〇年までは『大日本青少年団史』にまとめられた。

戦時下の昭和一六年一月、大日本青年団・大日本連合女子青年団・大日本少年団連盟（ボーイスカウト）・帝国少年団協会の四団体が統合され「大日本青少年団」が結成された。その数一千五百万の青少年が組織され、戦時下の後方援護、食料増産、民間防衛などに従事、敗戦までの国家総力戦体制にまきこまれていく過程を記録。

### 日本青年館発行【取扱図書】

### 田澤義鋪たざわよしはる 選集

●A5判・上製・函入・1、140頁・  
定価5、000円／89年5月再版

青年団の育ての親である田澤義鋪の著作の中から「政治教育講話」「青年団の使命」など主要なものを取録し、青年団の発達、政治教育の普及に腐心した田澤の精神を凝縮した貴重な文献。一九六九年刊。

山本瀧之助 編（明治44年〜大正8年刊）  
●全9巻・別冊1

### 良民

別冊Ⅱ解説（多仁照廣）・総目次  
●A5判・上製・総4、356頁  
揃定価150、000円

98年10月刊（復刻版）

雑誌「良民」は、編集を山本瀧之助、挿絵を竹久夢二、そして出版元を河本亀之助の三人によって、明治四四年二月創刊された。「地方青年」であった三人は、「大正デモクラシー」の生成期の時代相をとらえ、今日においてもなお、近代日本の青年・壮年層の形成過程を知る貴重な資料を提供している。

『山本瀧之助日記』（全四巻）の編者の解説を付し、広島県沼隈郡の山本家に残る唯一の原本をもとに、本書は復刻された。教育史、とくに近代社会教育史の資料である。

●推薦Ⅱ 大濱徹也・小川利夫・金原左門

中央報徳会・日本青年館ほか発行  
（大正5年〜昭和20年刊）

### 『帝國青年』『青年』

全48リール・別冊1

別冊Ⅱ解説（多仁照廣）・総目次・索引  
揃定価1、000、000円

06年7月〜07年1月配本完結（マイクロフィルム版）

本誌は中央報徳会の機関誌として、同青年部より発行された。後に誌名を「青年」と変え、発行所も日本青年館・大日本連合青年団・大日本青年団・大日本青少年団本部と変遷しつつ、当時の青年の修養・覚悟・態度等を論じ、戦時体制下には、農村青年と戦争について指導性を発揮する記事を掲載するなど、青年団活動の情報を提供し、かつ当時の青年層に大きな影響を与えた。

近代日本の社会教育史の歩みを体現する、五万頁に及ぶ本誌を、（財）日本青年館の協力によりマイクロフィルム版にて刊行。

●推薦Ⅱ 上野景三・小里貞利・菅原亮芳・渡邊洋子

●表示はすべて税別

## 不二出版

〒113-0023  
東京都文京区向丘1-2-12  
電話03-3812-4433  
ファクシミリ03-3812-4464  
振替00160-2-94084